

平成28年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	周期の理論と双有理幾何学の融合，ミラー対称性研究の新時代
研究代表者	高橋 篤史（大阪大学・大学院理学研究科・教授） ※平成28年6月末現在
研究期間	平成28年度～平成32年度
審査結果の所見	<p>本研究は物理学の弦理論に端を発し、数学的対象の代数的側面と幾何的側面を結びつけるミラー対称性を、周期の理論と双有理幾何の2方向から解明しようという、実力のある若手研究者による意欲的なものであり、大きな成果が期待できる。</p> <p>研究の焦点は良く絞られており、研究内容は極めて独自性が高い。また、研究計画も応募者の高い研究遂行能力から実現可能と判断される。ただし、国際研究集会等の重要性は理解できるものの、研究経費の必然性に不明確なところがあり、旅費については十分精査が必要である。</p> <p>このように、本研究は、当該研究分野をリードし、日本が世界に誇れる研究であり、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p>